資料①　　　令和５年度　社小学校教職員による自己評価

　※採点：４…できた　３…ややできた　２…ややできなかった　１…できなかった

１　主体的な研修≪３．３≫

　『誰もが個性や能力を発信する研修の場を創造し、研修を高め合う。』

【成果や課題】

○国語科に絞った研修になり、２年目なりの成果が出たと思う。単元デザインを意識した単元づくりを行うことができた。

○勝見先生の指導のもと、単元のゴールを魅力的にするプランを目指すことで、国語の授業のレベルは上がったと思う。

○特別支援部会で、特別支援について他の先生方から様々なアドバイスをいただき、学びになった。今年度は、体育と書写の授業も見せていただいたので、刺激になった。

●子どもの名前が飛び交う、子どもの発言から深まる事後研にできればと思う。

●研修で学んだことが、すべてに生かされているかと考えると、継続した研修やより児童の実態に合わせた研修を行う必要がある。

**【改善・確認事項】**

**★全員、授業研を行う。また、学年層から１本全校授業研を行う。全校授業研は国語科とし、学年層での授業研は、魅力的な単元づくりや教師の出場などの授業づくりで大切にすることを念頭に置いて、教科を問わないこととする。**

**★全校授業研においての事後研では、学年を超えたグループを作る機会ももち、今年度同様のグループ協議をする。授業記録を活用し、児童の姿を通して協議できるようにする。**

**★学期ごとの学年層の振り返りを生かし、定着していないことへ目を向けて適宜研究の軌道修正をしていく。**

２　思考力等を育てる学習指導≪３．０≫

『思いを伝え合い、言葉の力を身に付ける授業づくりを行う。』

【成果や課題】

〇単元で獲得した力が実際に使えるゴールになるように、単元計画を工夫した。昨年度よりも児童が何の力が必要なのかを意識しながら単元を進めることができたように思う。言葉の力は、書いたり読んだり話したりする活動を教科問わず意図的に設定していったので、言葉を使って表現することを意識できた。

○国語の時間には、短い文章を書かせたり、言葉をつかったゲームをしたりするなど、語彙を増やす活動に取り組むことができた。

○根拠を明確にして主張する（結論付ける）過程を実践することで、それが「言葉の力」につながり、各教科でも生かされていると思う。

●「言葉の力」を意識して授業を進めていったが、言葉の力が付いたかどうかは正直分かりにくい。「言葉の力」という大きなまとまりの中で、学級によって重点的に取り組むことが違うと、学校全体として積み上げができているかどうか評価しにくい。

●意見や思いを伝えることはできたが、伝えて終わりになってしまう子もおり、友達の意見に耳を傾けようとしたり気になったところを深め合ったりするところまで達成できなかった。

**【改善・確認事項】**

**★言葉の力を身に付けさせるために、言葉にこだわって根拠と理由を明確にさせて自分の考えをもたせることを、どの教科の授業でも取り組む。**

**★言葉の宝箱の掲示や身に付いた言葉を学級で集めるなど、教師が（学年で）どんな言葉を使えるようにしたいかをはっきりさせて、指導していく。**

**★全学年で、「聞く」ことを大切にし、他者の思いを受け止め思いを伝え合える児童を育成できるよう、日常生活にそれが生かせるような言葉がけを意識する。**

３　学力の定着≪３．０≫

「基礎基本の定着を図り、学力の向上を図る。」

【成果や課題】

○授業時間の始めに基礎基本定着のための時間を確保し、継続して取り組むことができた。

○帰る前プリントをして、算数の復習を中心に取り組んだ。忘れた頃に復習を入れて、身に付けたことを忘れないようにした。漢字ドリルやプリントなどで継続して取り組めたりした。

○宿題や朝学、授業の隙間時間等で、漢字や算数の学習を（ドリルやプリントなどのペーパーとタブレット両方を使って）効率よくすることができている。

○お直しをきちんとしたり、互いに教え合ったりしたことで、分からないことをそのままにしない習慣が子ども達についてき、学力の定着につながった。

●どの学年にも学力的に課題のある児童が多く、その児童を含め全員がどのように資質・能力を伸ばしていくか。

●授業の中、休み時間等の時間だけでフォローが追いつかない場合があった。

**【改善・確認事項】**

**★各学年で、定着させたい学力を明確にして、朝学、帰る前、授業時間の最初などのように時間を工夫して繰り返し取り組む。**

**★個に応じた学力向上の手立てとして、ドリルパーク等を活用し、児童が自らつまずきを確認しながら個別に学習できるようにする。**

**★授業UDの具体的な実践を特別支援担当から紹介し、職員で実践方法を共有する。**

４　計画的なケース会議　学年会議≪３．１≫

『時には広く、時には深く情報を集め、サポ－トファイルを活用し、継続的・重点的なチーム指導を進める』

【成果や課題】

○学年会を通して、よく話し合いがもたれている。生徒指導ノートはよい報告手段である。

○気になること、困ったことがあるたびに、支援級のメンバーで情報を共有し、相談することができた。問題行動があったときには、チームで即対応ができたのが良かった。

○教育相談の際に、サポートファイルを活用した。定期的にサポートファイル活用に関する目標を見返すことで、サポートファイルの活用を見つめなおすことができた。

●学年会で、SFをもっている児童の情報交換ができることが多かったが、全員の情報が出たわけではなかった。

●サポートファイルを担任が管理しているので、チーム指導には使えていない。

**【改善・確認事項】**

**★集団に適応できにくい児童については、低学年から積極的にサポートファイルの作成を保護者に促す。**

**★学年会議で、少なくとも学期に1度は、サポートファイルを読み合う時間を作るようにする。**

**★サポートファイルを担任保管ではなく、みんなが見られるようなところに保管する。**

５　交流及び協同的な視点による特支教育≪３．２≫

『児童理解を全校的に深め、よりインクルーシブな学びの場をつくる。』

【成果や課題】

○啓発朝会がよく工夫されている。

○毎年行っている児童理解の研修は、全体で共通理解をすることができ、とてもよいと感じる。

○特別支援担当だけではなく、児童支援担当や生活支援担当、養護教諭、生活指導担当等連携し、その児童に対しより良い学びの場を提供できている。

●児童の多様性が広がっている中、どう対応していくか、予防的な取組や早期の取組、より組織的な取組を行う必要がある。

**【改善・確認事項】**

**★学年発表・啓発朝会を継続して行う。**

**★特別支援の研修を工夫する。**

６　組織的な生徒指導≪３．２≫

『いじめ未然防止、早期発見、早期対応を組織的に行う。』

【成果や課題】

○学年間や生徒指導の教師、管理職と連携し、早期対応を組織的に行うことができていた。

○介助員の方やアシスタントの先生と日頃情報交換していたので、休み時間に外で遊んでいる子どもたちの様子を聞くことができた。

○先生方が、休み時間に子どもたちと遊びを通してふれあう機会をもつことは、とてもいいことだと思う。

●早期発見、早期対応ができていた。未然防止、問題行動の共有は十分ではなかった。

●生徒指導委員会として情報交換が十分にできていないことがあった。

**【改善・確認事項】**

**★教師全員が共通理解し、指導を統一するため年度初めに生活指導に関する研修を行う。**

**★生活指導委員会等での情報交換の工夫。**

７　勤務時間の適正化≪２．６≫

『計画的・効果的に業務を行い、勤務時間の適正化を推進する。』

【成果や課題】

○以前よりも、業務時間に対してメリハリをつけて行動できた。

職員会議の資料等を計画的に作成していた。定時退勤日は、完全実施はできていないが、職員の意識は見受けられた。

○自分なりに計画的に業務を進められた。定時退勤日は、６時を回ってしまうこともあった。お互いに声を掛け合いながら、定時退勤日は切り上げるようにしたい。

○できるだけ勤務時間が長引かないよう空き時間や放課後を使って勤務をすることができた。

○他の先生方からも気遣って頂き退勤しやすい環境だった。

●計画的・効果的に業務を行っても、絶対的な仕事量が多く、勤務時間の適正化は行えなかった。

●勤務時間内に終わることができるように、丸付けやその他の作業をアシスタントや学年付きの先生方にやっていただいているが、それでも業務が勤務時間内に終わらない。

●突発的なトラブルや業務などがあり、計画通りには仕事が進まないことが多い。土日にも出勤することもあった。

●職員会議の提案時間を意識することができなかった。個人的にも、勤務時間の意識ができていなかった。

**【改善・確認事項】**

**★協働できること、分担できることは、積極的に行い。業務時間を短くする。**

**★行事は、常に効率的に意義あるものを念頭に改善していく。**

８　ICTの積極的な活用≪３．１≫

『児童の情報活用能力の育成と、ICT活用による授業と校務の効率化を図る。』

【成果や課題】

○タブレットを活用して、プログラミングやオンライン授業等の力をつけることができた。

○プロジェクターを使用することで、授業の準備時間が大幅に短くなった。

○ICT支援員や情報担当に助けてもらいながら、ICTを様々な場面で教師も子どもも活用することができた。

●高学年では、授業中にふさわしくないタブレットの使い方をする児童がいたため、使い方の指導は常に必要。便利なだけに、使うには我慢する力も必要になる。

●デジタル教科書がつながりにくいことが多々あった。 デジタル教科書で地図を活用することができなかった。

**【改善・確認事項】**

**★情報委員会などを活用し、研修や情報共有をする。**

**★問題行動があった時には、タブレットの約束を基に指導する(そのためには、４月からタブレットの使用について学級で指導しておく)。**

**★ワークシートなどを各学年のフォルダに教科ごとに引き継いでいく。**

９　積極的な情報提供≪３．６≫

『各種通信、HP、学校オープン等で学校情報を保護者、地域に提供する。』

【成果や課題】

○児童の活動の様子、学級で大切にしていることなどを学級通信、学年通信で知らせていくことができた。

○HPで行事の様子をすぐにアップすることができた。

（コロナやインフルエンザ対策として）地域とのつながりが希薄になってしまう中、各通信やＨＰはつながりを保つ大切なコンテンツであり、地域や保護者に発信できている。

○tetoruの利用や各種通信をある程度定期的に配信できている。多文化共生で学校からの案内をベトナムの児童あてに、ベトナム語で配信することができた。

○学校オープンは、来賓の方や保護者の方に、多く参観していただく機会があった。

●行事等で児童の様子を保護者にしっかり見てもらえている。 各行事、半日開催で児童の集中力も高く、よい姿が見せれている。 学校オープンは祝日開催ばかりなので1日は児童にとっても教員にとっても負担である。

**【改善・確認事項】**

**★各通信、HPについては、現状通りHP、紙媒体で行う。**

**★来年度は閉校関係（航空写真、記念誌）の発信、行事が増える。**

**地域の方への発信を負担なく増やしていく。**

１０　主体的な規範意識≪２．９≫

『ルールやマナーの理由を児童自ら考えさせ、児童会からの積極的な発信を促す。』

【成果や課題】

○委員会からの啓発やキャンペーンなどが活発で、それぞれで自らよくしようとできていたと思う。全校生も委員会からの提案に協力的にできていた。

○道徳の時間等で話し合うことができた。道徳やブロック朝会などの機会を逃さないよう心掛けた。

○学習の時間と遊ぶ時間で区切りをつけることを学級で話し、意識的に頑張っている児童がいる。

●学校全体のルールが甘い部分があるため、高学年を中心に良くない風習みたいなものが広がっている。ブロック朝会で、６年生からルールやマナーについての発表をしている効果は少し出ていると感じるが、普段の生活を見るとまだまだだと感じる。

●ルールやマナーの大切さや理由を伝えることはしたが、児童自ら考える機会を設けることができなかった。

**【改善・確認事項】**

**★ルールやマナーについて、全職員共通理解して徹底する。（生活指導に関する研修）**

**★学級会の進め方を年度初めに提案。（児童に考えさせる工夫を）**

１１　熱心な清掃活動≪３．０≫

『すべきことを与え、考えさせ、掃除を最後まで頑張る児童を育てる。』

【成果や課題】

○もくもく掃除キャンペーンを繰り返した効果が出てきている。掃除時間まで場所を離れない、だまってするなどの習慣化ができてきている。また、教師も担当場所をしっかりと見るようになった。

○高学年と低学年が一緒に掃除をしている活動を通じて、低学年が高学年を見習う場がある。特に６年生が１年生を教えたので、１年生が掃除の仕方を早く覚えることができた。

●担当箇所を見回っているが、見ていないとしないことが多い。

●時間いっぱい一生懸命掃除する児童もいればそうでない児童もおり、手持ち無沙汰になっている児童がいた。

**【改善・確認事項】**

**★もくもく掃除キャンペーンを定期的に行う。**

**★担任は、担当場所をしっかりと見守る。**

**★年度初めに、そうじをする意味と、そうじのルール（黙ってする。掃除場所を離れないなど。）について話をし、徹底させていく。**

１２　継続的な「考える」「明るく健康でたくましい」場≪２．８≫

『自分の目標や学級・学校づくりについて考え振り返る、継続的な場を設営する。』

【成果や課題】

○毎日、終わりの会で一日の振り返りを行う時間を設定した。 定期的に学級目標の意味を確認したり、具体的に何に取り組んでいくのかを考えたりする時間を設けた。

○行事、クラス活動、係活動等において、できたこと、できなかったこと、これからすることを明確にする話し合いをし、個人として、またはメンバーとして自分がどのように関わっていくべきかを考える時間を設定した。

〇キャリアパスポートを活用し目標の確認と自己評価できたのはよかった。

●振り返らせる時間をあまりとることができなかった。

【改善・確認事項】

**★毎日の終わりの会、行事後、学期末など機会があることに振り返り、成長を喜び合ったり、課題を意識させたりする場を積極的に設営する。**

**★掲示、カードを増やすなど、意欲的に取り組めるよう環境を整える。**

**★学期ごとに学校目標や学級目標に関するアンケートをフォームズで行うと、達成状況をその都度確認し、次の学期に生かすことができる。**

１３　主体的な児童活動≪３．５≫

『主体的な児童活動を推進し、６年生の活躍の場を設定する。』

【成果や課題】

○ブロック朝会で、６年生は学校生活の見直しについて下級生にうまく伝えていた。

○６年生が最高学年としての役割を意識して活動する機会がたくさんあった。

●ブロック朝会では、全校生へ啓発したいことや高学年として伝えたいことなどを「ヤシロー」の出し物で常に伝え続けられた。高学年としてお手本にならなければという自覚はもっている。ただ、それが伝えるだけに終わり、実際の生活に生かし切れていない場面もあることが課題。

**【改善・確認事項】**

**★業務改善等も含めて、6年生が活躍する場、自治的活動ができる場を考え、より自治が深まる場を精選していく。**

**★わくわく班活動後に、６年生自身が振り返りをし、次の活動に生かす。**

**★６年生が主体となって、全校生を巻き込むイベントを企画する。**

1４　行事≪３．３≫

『子どもの向上心を引き出しながら行事を精選したり縮小したりして取り組む。』

○今年度並みの行事で十分だと思う。それぞれの行事で、児童は達成感をもって取り組めていた。

○ごりょうが丘フェスティバル、運動会等、児童のいきいきとした姿が見られた。

○コロナやインフルエンザなどが流行する時期があるので、その時期に合わせて精選したり、縮小したりできていたように思う。

○たくさんの先生方が休み時間によく遊ばれています。子どもたちも喜んでいます。

**【改善・確認事項】**

**★リサイクル品回収は1回にする。**

**★行事の半日開催（学校オープン、運動会、マラソン大会）**

**★第1回の学校オープンの授業は１，２校時をを参観授業、３校時を１～３年の情報モラル研修、４校時を４～６年の情報モラル研修とする。希望の保護者に、情報モラル研修に入ってもらう。**

**★学級閉鎖時のリモート授業は、弾力的に行う。**

**★ノーチャイムを段階的に開始する。**